

「脳疾患患者の育児行動における技能と環境についての考察および 患者にかかわる作業療法展開についての多面的影響」 研究結果報告



内田 智子 氏

研究の結果と今後の予定

内田 智子

(神戸大学, 作業療法士)

第17回作業療法ジャーナル研究助成をいただき実施した研究「脳疾患患者の育児行動における技能と環境についての考察および患者にかかわる作業療法展開についての多面的影響」の報告を致します。

本研究では、育児を行う片麻痺の当事者10名の方と育児を必要とする片麻痺患者の担当経験がある作業療法士10名の方から半構造化面接によりデータ収集を致しました。本研究にご協力をいただきましたすべての方に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

データ収集により、乳児期には、主に片麻痺による影響を起因とした子どものお世話にかかわる技能での困りごとが多いことがわかりました。幼児期・学童期では、自身の活動制限が子どもの経験を制限すること、子どもの希望をかなえられない葛藤が困りごととし

て挙がりました。また、その解決法として最も多く挙げたのが、子どもの成長、自身の親（祖父母）の援助でした。

一方、作業療法士のインタビューでは、基本的な脳血管疾患患者に行う評価に加え、育児に必要と推測される技能を活動評価として取り入れる工夫がなされていました。

本研究で得られた結果の一部については、2023 International Neuropsychological Society Taiwan Meeting および第8回アジア太平洋作業療法学会で報告致しました。今後は論文にて報告すべく準備中です。また本研究から発展し、新たに研究助成を受けられることも決定致しました。引き続き本研究を深められることに感謝し、進めて参りたいと考えます。